

木知原の今昔!

33号:6・2・23

気分転換! 学校を話題に...

学校シリーズ (其の一)



♥ 木知原の子どもは“渡し船”で学校へ?

エッ! ウッソー? 本当です

明治12年に神海小学校(神海の金輪寺)と外山校(川内の瑞光寺)が長瀬小学校に合併したので木知原の子ども達は岩崎の渡船場を利用して長瀬小学校に通うことになったわけである。

♥ “渡し船で学校”と聞くと楽しいようであるが風や雨、特に増水時は神海へ迂回するなど大変であったので、次の年には神海小学校(金輪寺)が再開されている。合併理由は?

😊 元学校♪校歌の歌詞♪が後の“特攻隊の名”に?

元学校とは、現ライスセンターの処に明治15年に新設された「神海小学校(初等科3年)」を廃校後も親しみをこめて“元(もと)学校”と呼んでいる。その学校の校歌を紹介しましょう。

📖 作詞作曲者は不明であるが「当時教師であった上川内の鷲見玄策医師(明治の初めに寺子屋を開いていた)ではないか」と聞いた。確証はないがほぼ間違いないと思う。

一、大茂の峰の 空高く
雲にそびゆる 雄々しさは
わが学び舎の 校風の
けだかき姿に さも似たり

古人いえらく 敷嶋の
大和心を 人間わば
朝日におう 桜花
学びの庭の 西東

二、名も万代の 新井水
永久に流れて 尽きせぬは
わがはらからの 美しさ
情けの海に さも似たり

いざや我が友 もろともに
つとめ励みて たゆみなく
清き心と 強き身を
国と家とに ささげなん

📖 この歌詞を二人の古老に見せたところ二人ともすぐに歌い始められた。80年前の校歌ですよ! 懐かしかったですよね?

📖 世相を感じる歌詞が随所に折り込まれている。素人解釈で、

📖 江戸時代末期の国学者(本居宣長)の敷嶋の歌「大和心の美しさ」を引用し校歌には「山桜」が「桜花」となっている。
・運動場の道沿い東西にソメイヨシノが植えられていた
※第二次大戦の特攻隊に「敷島・大和・朝日・山桜」の名が付けられたが卒業生の心境は複雑であったと思う。

📖 「国と家とにささげなん」と明治政府の政策や修身教育思想がにじんでいる。現在ならOUTでしょう?

※中国(清)・朝鮮・ロシアと何かときな臭い雰囲気漂い明治27年に日清戦争勃発となる世情ならではの歌詞!

💡 小学生がどこまで歌詞を理解して歌ったかはわからないが理屈抜きに元気よく歌えばよいのでしょうか?!

📖 元学校は昭和11年3月までの45年間使われていた。

😊 山越え通学

📖 “元学校”と言えば木知原では長谷地区の山越え通学を思い出す。

📖 コースは、養鶏場脇の沢→新井水→吊橋(親が架けた)→学校。

📖 山道は、ヒト一人がやっと通れる獣道に近かった。私も2~3回下校時。

思い出話 子どもだったから大変・えらい・つらいと思ったことはなかった。

♥ 誰もが竹皮に包んだおにぎり(弁当)を風呂敷に包んで腰に巻き付けての登下校であった。(一年生が毎日12~4キロ当たり前の様に歩いた)

♥ 思い出するのは「イタドリ・山リンゴ・山柿・シイの実・栗・アケビ松の実」など食べながら「ぞんぞ遊び」や「藤づる遊び」が楽しみの一つであった。

♥ またワラビ・ゼンマイ・ふき・タラ・山栗」など季節の食材を採りながらの下校も親に喜ばれ楽しかった。

♥ 冬はストーブの燃料(杉葉や小枝)をみんなで拾い集めながら登校したので学校で喜ばれた...



♥ 山越えは大変であったが、今では楽しかった記憶が懐かしく思い出されたのでしょうか。時代が違うと言えばそれまでであるがスクールバスより楽しい登下校であったかも知れませんね。